#### 2022.9.12

大阪府油田市石橋2-2-10-203

常務理事 北田成磊

#### こ八と回 一読そ売 して中 央展 研の 究審 会査に 向て

けて

理事長

真鍋井蛙

協会会員皆様のご努力の結果であり、協会の勢いを感じてまいり 審査がありました。我々日本篆刻家協会からは一四二点の出品が ちんばかりの暑い東京ワールドインポートマートで読売書法展の ました。 あり、参加七印社中最も多い出品点数でした。これは日頃からの でしょうか。去る七月二十五日から二十九日まで、 会員の皆様にはコロナ禍の渦中ではございますが如何お過ごし 蝉も木から落

きましては、昨年同様、 特化したもので、会員の皆様には、 研究会を開催したいと考えております。この研究会は主に大印に だければ幸いに存じます。 行事も前へ進んでまいりますので、皆様何卒篆刻を楽しんでいた を製本したいと考えています。ウィズコロナを考えながら、協会 届くことと思います。また毎年行ってまいりました分刻印譜につ じます。詳細につきましては係の方より各印社長を通して皆様に 今後の学習に還元できるよう、 さて、審査では他印社の先生方からのアドバイスが多数あり、 分刻課題を各人で刻していただいたもの 十一月二十六日 (土)に一日、中央 是非ご参加いただければと存

1

### 第三十 八回 日本篆刻展開催

常務理事 東尾高岳

されたことは誠に喜ばしいことであった。しかし、 子分館(原田の森ギャラリー)本館二階大展示室において開催された。 日(水)から五日(日)までの五日間にわたって、 残念ながら、 日本篆刻家協会主催 実に三年ぶりに、 第三十六回・三十七回展は誌上展形式で開催され 原田の森会場において第三十八回展が開催 「第三十八回日本篆刻展」が令和四年六月 兵庫県立美術館王 祝賀懇親会は

> ウンプラザホテル神戸において粛々と挙行された。 感染拡大防止の観点から見送られ、授賞式のみがANAクラ

顧問・尾崎蒼石会長両先生ご蒐集の、 った。 国の古銅印を凡そ三百点展観いただき、大いに勉強になった 十四点・高校生二十六点の合計百六十五点であった。 ナス十四点であった。学生展は、 した。出品数減少が多いのは常任委員資格の方で前年比マイ 六百四十四点、 特別展観は「壮観 公募出品は昨年より四点減少したが、 そして今回の三十八回展は六百二十六点であ 中国の古鉢印」として、山下方亭常任 小学生六十五点・中学生七 戦国・秦漢・魏晋三 会員出品は増加





 $\triangleright$ 会場風景

 $\triangleright$ 特別展観風景

出品者総合計は、三十六回展・七百二十一点、三十七回展

# 第三十八回日本篆刻展授賞式

### 常務理事 松本雅至

> 謝辞を頂戴した。最後に井谷五雲常任顧問の挨拶で閉会となった。 定祝辞を賜った。また、大賞受賞者の東緑園常任委員より受賞者を代表しての 二様および神戸市文化スポーツ局文化交流課長の井関和人様より心のこもった 二様および神戸市文化スポーツ局文化交流課長の井関和人様より心のこもった 大賞受賞式は真鍋井蛙理事長の挨拶のあと、高校の部「最優秀賞」を皮切りに、

くコロナが終息し、来年は盛大に盃を交わすことができることを強く望む。覧会および授賞式が二年ぶりに開催できたことは嬉しい限りである。一刻も早コロナ禍の影響で、残念ながら祝賀懇親会は見合わせることとなったが、展







▷ 受賞者を代表しての謝辞

▷ 開会の挨拶

## 第九回訪聴涛印会展 展覧会報告

や自然、 のか」』で二人展を開催した。 五月上旬から二十六日間、鳥取県西部地区にある観光スポットである賀祥 (かしょう) 「くらしの中にある篆刻」をテー 食事、 ダムの湖畔に位置する『静かな森の喫茶店「カフェ・ド・ 喫茶を楽しむために訪れる方も多数ある会場で行った。 来場者は、 マに、二人がそれぞれの節目を記念し 篆刻に興味がある方でなく観光 穂

なった。二人展を通して、 が展示され、 0 会となった。 たことは、 ·展覧会」として継続されてきた取り組みである。 この展覧会は、 今後のライフスタイルを展望していく上で、 篆刻を知らない多くの方にも作品を鑑賞していただく機会と 五年前から日曜画家が集い、 地域活性化と文化振興への貢献が少しでもでき 地域を応援する「湖畔の 今回、 大変意義深い展覧 初めて篆刻作品

### 篆刻で伝える気持ち

カエルをモチーフにしたイ ラストの篆刻を添え、落ち 外の孫に宛てた手紙には、

ある篆刻」をデーマに日本 ライナ侵攻が始まった時期 しいという願いを込めた。【南部】「くらしの中に ・ 枢間さんカロミラク・ノ・メートー 始まった。かわいらしいイ 展が4日、鳥取県南部町下 谷のカフェ・ド穂のかで 世界を表す篆刻「大楽」を ので、 どの文字を配置。新型コロ ナウイルス禍で会えない 中心に「平安」「長業」な 松岡さんがロシアのウク 着いたら早く帰ってきてほ スト作品なども並べている 堅苦しく考えず、如 「動物のイラ

公日は午後2時まで)。入 ノスト作品を含む24点が、 刻の魅力を伝える。29日 篆刻は篆書体の文字を

市福市の遠藤米子人さん の松岡泰南さん(81)、米子 印章。同県日吉津村日吉津 石、木、金属などに彫った

61)がそれぞれ傘夷、還暦

 $\triangleright$ 山陰中央日報記事  $\triangleleft$ 日本海新聞記

事

#### 篆刻作品展示 動物の絵など

印二人 展 南部でSan が開かれている。四字と傘寿を迎えたことを 熟語や動物の絵など多 =の「San印一人展」 (81)=日吉津村日吉津 福市=と松岡泰則さん 一会会員。それぞれ還暦 記念し、初めて二人展 日まで 二人は日本篆刻家協

様な篆刻作品21点が展 示され、訪れた人の目 を開いた。

エ・ド穂のかで、遠藤米 子人さん(61)=米子市 南部町下中谷のカフ を楽しませている。29 わざなどの四字熟語を 篆刻は、中国のこと している。22日には、 遠藤さんが石に文字を をテーマに作品を展示

分かりやすい封印や年 いる。 篆刻を知らない 暮らしの中にあるもの 賀状に使うはんこなど 加え、知らない人にもくない作品を展示して ること。通常の篆刻に 石に彫ってはんこを作彫る様子を実演した。 人にも楽しんでもらえ れば」と話した。 松岡さんは一堅苦し

> 休みを余儀なくされる中、 る非常事態宣言下、 年を経過したということになりますが、 て感じました。 のですが、やはり仲間と顔を合わせ、 隔年開催の聴濤印会展は第九回を迎えました。本来なら初回開催以来十八 書や篆刻は現今流行のいわゆる〝三蜜〟を避けて自宅で一人楽しめるも 二年足踏みをすることとなりました。 展覧会も中止となり、 共に学べることが大きな喜びだと改め 新型コロナウィルスの感染拡大によ 分刻印譜のみ制作をしまし 昨年はお稽古もお



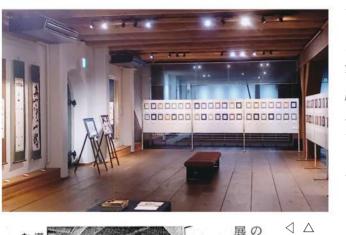


▷ 会場風景

 $\triangleright$ 会員の皆さん

### 立石見聲「方寸百顆」 展 展覧会報告

端の地にささやか乍ら篆刻の花を咲かせることが出来 御礼申し上げます。また役員の先生方より丁重な激励 明しまくり、 のお便りをいただき感激いたしました。 演並びに祝電を頂戴いたし、まことに有難く、 内訳は半分がお友達、半分は観光客の方でした。篆刻 接近で苦戦したものの、長い会期も手伝って、六四○名の方に観て頂きました。 **臆面も無く販売までやる始末(だから「ヒャッカテン」?)** れがメインだから「方寸」なのです。 たような気に成っております。 について漢字について漢語 々毎月休まず作った月例課題から百点余をチョイスして並べてみました。 旧篆社入会より二十年、 疲れ果てました。 (出典) について九日間説 〝評議員〟と云っても個展と言える個性も無く、 協会、 理事長様より講 金文風から鄧散木まがいまでとり揃え、 お陰様で、 心より 西 日まで。無料。 2階ホールで始まった。10 聲さん(8)の作品展「方寸 平戸市の篆刻家、立石見 久保町の平戸オランダ商館 百顆展」が2日、同市大 平戸の篆刻家 立石さん個展 手書き、手彫りの文字の オランダ商館、10日まで で、 当初は台風 只



漢詩や漢文の明言などを題材にし た作品などが並ぶ「方寸百顆展」 =平戸市、平戸オランダ商館

は心に響く」とアピールし が、手書きや手彫りの文字 長崎新聞記事 会場風景

県立猶興館高の名称の由来

を感じてもらおうと企画。

温かみ、文字を書く楽しさ

展出品の大型印など131 の名言、全国レベルの公募 西一個 となった漢詩の一節や漢文

点を展示している。 フォントが流行しています

出身の篆刻家に師事し、日 始めた。約20年前、松浦市 道教室を主宰している。 本篆刻家協会に所属。現在、 興味を持ち、独学で創作を たいという思いから篆刻に た。自分の落款印をつくり 父親の指導で書道を始め 経営する陶器店の一角で書 立石さんは小学生の頃、 立石さんは一デジタルの

## 第三十回遠邇篆会展 展覧会報告

小学生が卒業記念で刻した十七作品も展示した。 出展会員八名 央図書館第二展示室で行った。今回も、コロナ対策を行いながらの開催となった。 第三十回遠邇篆会展を七月十三日(水)から七月十七日(日)まで磐田市中 作品数十七 禅林語句分刻二十四作品を机上に展示した。また

にしたい。 しんだようだった。今後は、会員数増加につながるような展覧会になるよう 隣接の展示室では、 磐田市書道連盟展が開かれ入場者は、 互いの作品 を楽





▷ 会場風景

信仰 子第二元身一 次の食の打ちは近極

### 第四十回六轡會篆刻作品展 與 鯉鱗展 展覧会報告

轡會篆刻展與鯉鱗展が開催されました。 八月十七日(水)~二十一日(日)まで、京都文化博物館にて第四十回六

三印社の門人十七名も出品する機会を頂きました。 今回は四十回記念展ということで、本協会の理事以上の娯惲、 畦石、斉平

添えていただきました。コロナ禍にも関わらず会期中約千人もの来場者があ 会期中には小田玉瑛先生の計らいで二胡の演奏会も催され、 大盛況のうちに終えることができました。 展覧会に華を

Madanti sal





(左から画 - 井谷・賛 - 小/画 - 小・賛 - 真鍋/画 - 真鍋・賛 - 小 ※敬称略)  $\triangleright$ 六轡會の面々

 $\triangleright$ 

合作作品

## 第三十七回随風會書法篆刻展 展覧会報告

鷗藝術学院。特別陳列は尊彝閣蔵漢代青銅器と先秦貨幣。山下先生の日中国交 鍋井蛙理事長をはじめ協会役員会員多数の来場に感謝致します。 震災後、 正常化五十周年記念の篆書の大作「萬國咸寧」その中に鈴拓の二十四方形刻印 「萬國咸寧」をスマホで撮影する方、特別陳列の品々に見入る方が多数 八月二十三日~二十八日の間、 続けている福島震災孤児支援の吉語印の販売は完売し、 京都市京セラ美術館にて開催、 国際交流は晋 即刻送金。 真



▷ 会場風景

 $\triangleright$ 随風會の皆さん

# 挙 国漢

副 理 事 長 芳 邑

タを送る依頼があり、連絡があった。印屏全 ッ待品 まだまだ課題があるようだ。 ^クダウンも緩和され、2していたが、中国への 五. 月 十五 の整 理をした。 H 協会事 への小包郵送ができない状態が続いていた。中国各土海の大規模ロックダウンも終了し、通常に戻る 務 Eの一点、印屏中の摸刻、創作それぞれ一点の写真のデ陳介祺研究会の陳新会長より七月末には審査を行うと 所 て、 渡 邉 和 後雅 田 た。中国各地でのロ通常に戻ることを期 氏とともに、 0



東瀛東都 朱

 $\triangleright$  $\triangle$ 選定風景 最終撮影作 品 田 氏より

**吟介祺賞** 関嵯 踏青洛 Щ

入選 (三優秀賞) 野 燕安 武  $\mathbb{H}$ 黎 秀 花 房浩 井

香矢戸山杉髙井畑片取羽出崎本橋本間畑桃野紅井加忠雅青仁水徹桃泉世義士露美 也 岩 荒田木大城浦中村容安里清紅珠庸史子 松本翠女 中山川浅白 坂村畔島本野良幡小正田原幸龍蘇朱雪林歩鳳石晨華峰生魚 多 良 三 大田無 八 大 寺 地 寿 和 生 翠 外 田井小 [学友 主主 

#### 第 回 読 売書法展

特選 池内 読売俊英 遠 野

大原誠 田 鳳

木村佳

秀逸 浦岡香之 平中葭舟 大林蒼樹 坂田 古瀬章石 渋谷春好 真嶋寧々 杉本加 吉永小依

入選

檀寺古樫岩石青中井池原地賀野本﨑木森宮 京本等已麗凌魯和紫喜和 京本等 京和子琴慶行馨香雨月 田川 田めぐみ用恵理奈 福堂遊藤亦田原翠仙紅女春舟芽 一田朝 安藤慎 山内昂地 <sup>~</sup> 丸 山 山 [崎井] 法邑玉芳 橋本游月 原林泉 坂正歩子 庄田真紀子 津守笙人 北野京子 古賀俊一郎 井上石蕗 萬谷碧凰 奥島春泠 T本博信 堀田苔筵 井本雅士 押田・ 二白郎 蓬

#### • 第十三 回中央研究会

内参場日 容加所時 五○○○円 丸善インテックアリーナ大阪 令和四年十一月二十六日 (大阪市中央体育館)メインアリ(土) 十時 ~十 六時 三十分

費 戦 国 秦 漢

大印研究 (講義「中国の古鉨印 (講義 添 削 指 導) (を中心として) 印社代表者会議を中心として)」

選文から側款に至るまでの研究を進めたいと考えています。多くの方の参加を期待しております

### ■展覧会のご案内

四 一回島根篆刻 展 九 月 九 日 (金) S + 日

中(日) 電 力 Š れ あ ホ 1 ル

七 П 有 磯篆会展 月二十三日 (金) ~二十五日(日)

館 ギ ヤ ラ 1) Α

Б. 回 齊平 展 + 月 日 土

大阪産業創造館三〜二日 (日) マー ケッ トプラ

Ė П 畦 石舎 作 品 展 月 H 日図デザイン博?(土)~二日(日) 物

蒼文篆会展 月二十二日 (土) ~ 败産業創造館7 階日 館 (みやこメッ セ

第二十

回

不華篆会習作 展 + 月五 日 立土 伊丹ミュージアム

市

旧

岡

田

家邸

酒

蔵

ケットプラザ

※本年度の社中展等、 開催予定がございましたら事務所までご連絡ください